

阿倍野区教育会議における意見等について

- 最近、外国籍の方の入学がすごく増えていて、先生方が大変な思いをしていると聞きました。阿倍野区だけの問題ではないと思いますが、どのような対策をされているか教えてください。
 - 外国籍の方の割合につきましては、市の人口のうち7%近い数字となっており、政令市で最多となっております。コロナ禍以降、大阪市全体で外国籍の児童の入学が急増しており、阿倍野区でもその状況が顕著なものとなっております。
本市では、日本語指導が必要な子どもが編入してきた場合、市内4か所の共生支援拠点において、プレクラスとして一定期間、学校生活で使う簡単な日本語や学校文化等を学び、その後、半年程度、市内17箇所の「日本語指導が必要な子どもの教育センター校」にて日本語の基礎を学び、通常の学校生活を送るのが基本となっております。また、令和7年度からは子ども達が使用する一人一台端末へAI翻訳機能を追加し、子ども達の勉強の補助や、教員の負担軽減が図られています。
阿倍野区としましても、校長先生方から大変だとのお声をいただいておりますので、引き続きご意見を伺いながら、区役所として何かできることはないか検討して行きたいと考えております。

- 近年の子どもたちの基礎体力の低下を危惧しています。基礎体力は生きていくうえで重要なものですが、近年では外遊びでの体力向上に期待できる状況ではないため、学校で行われている体育の重要性が増していると思います。
- 自由遊びが体力の向上に有効との見解がある中、マンモス校で休み時間の運動場利用について学年を分けて使用しているのは何とか出来ないのかと思います。
 - 当区でも体力向上に寄与することを目的として、運動の専門家である運動指導員を体育の授業に派遣する体力向上支援事業を実施しておりますが、学校の意見を伺いながら引き続き検討してまいります。
いわゆるマンモス校ですが、当区では常盤小学校と阪南小学校が適正な規模を大きく上回る過大規模校となっており、少しでも子どもたちの教育環境を改善するために、令和8年度入学から学校選択制による受入抑制を開始することにしました。

- 幼稚園や保育園などの就学前施設と小学校がつながっていけるような取組があればいいなと思います。
 - 小学校の教員が就学前施設の取り組みを理解しておくことは重要なことだと思います。教員が直接施設を見に行くのは難しいかもしれませんが、教員の研修会の場などで、就学前施設の取り組みについてご説明いただければいいような場を設けられればと思っております。